



TITLE:

心理研究部門(I 研究所の概要)

AUTHOR(S):

室伏, 靖子; 浅野, 俊夫; 小嶋, 祥三; 松沢, 哲郎

CITATION:

室伏, 靖子 ...[et al]. 心理研究部門(I 研究所の概要). 霊長類研究所年報
1984, 14: 14-16

ISSUE DATE:

1984-09-29

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/163329>

RIGHT:

prefrontal cortex of performing monkeys. Abstracts of Invited Lectures, Symposia and Poster Presentations Indexes XXth Congress, Proceedings of the International Union of Physiological Sciences, Vol. XV, 520.07, p. 445.

- 2) Matsunami, K. (1983): Radioactive deoxyglucose uptake into the monkey motor cortex during controlled forelimb movements. Abstracts of Invited Lectures, Symposia and Poster Presentations Indexes XXth Congress, Proceedings of the International Union of Physiological Sciences, Vol. XV, 370.03, p. 293.
- 3) Matsunami, K. (1983): Unit activity of the pontine nucleus in behaving monkeys. The 60th Annual Meeting of the Physiological Society of Japan, *J. Physiol. Soc. Japan*, 45, p. 434.
- 4) 細口俊之・松村道一・久保田競 (1983): サル前頭前野におけるアセチルコリン, ノルアドレナリンおよびドーパミン感受性ニューロンの屈分布, 第30回生理学中部談話会予稿集, p. 22.
- 5) Matsumura, M. and Kubota, K. (1983): Spatial distribution of neurons with monosynaptic inputs to adjacent neurons in the primate motor cortex. *Neurosci. Abs.*, Vol.9, p. 492.
- 6) 有國富夫・久保田競 (1984): サルによる前頭前野一尾状核投射のHRP法による研究, 第7回神経科学学術集会予稿集, p. 93.
- 7) 松村道一・沢口俊之・久保田競 (1984): サル大脳皮質運動野ニューロン間の単シナプス性結合における入力収束と出力の発散について, 第7回神経科学学術集会予稿集, p. 81.
- 8) 松波謙一 (1984): 運動遂行に伴う上肢筋および下肢筋への放射性2-DGの取り込み, 第7回神経科学学術集会予稿集, p. 113.

心理研究部門

室伏靖子・浅野俊夫・小嶋祥三・松沢哲郎

研究概要

- 1) チンパンジーの図形語による記述行動の分析

室伏靖子・浅野俊夫・小嶋祥三・松沢哲郎

チンパンジーまたはヒトの動く画像を図形語によって記述する場合、主体と客体の関係および話者の視点の効果についての分析を試みる。

- 2) チンパンジーの自己認識に関する実験的研究

室伏靖子・浅野俊夫・小嶋祥三・松沢哲郎

鏡にうつる自分の像に対する反応から推定されるチンパンジーの感覚・知覚的自己認知を、自他の社会的認知の成立という観点から実験的に解明する。実験は次の段階を追って進行中である。1) 個体名とその身体部位の名前の獲得, 2) 種と性による個体の記述, 3) 代名詞, わたし, あなた, 彼, 彼女の導入。

- 3) チンパンジーにおける数の概念の形成¹⁾

室伏靖子・浅野俊夫・板倉昭二²⁾

チンパンジーに数の体系がどこまで理解できるかについては未だ明らかでない。その第一段階として、ビデオ画面にランダム・パターンであらわれる点(直径1.5 cm)の数に、系列的なキー押し反応をマッチさせる学習が訓練される。現在、点の数は4個まで進行中。

- 4) ニホンザルの集団場面におけるオペラント行動の獲得と伝播

浅野俊夫

本研究所の放飼場の若桜群を対象にして、パネルを押すと大豆等の食物が入手できるという新しい行動を集団場面での条件づけによって形成し、伝播の様子を観察した。今後はパネル押しよりも一層むずかしいゴルフボールを拾って交換台に入れ、大豆を入手するという集団場面におけるトークン使用の伝播を分析する。

- 5) オペラント強化の性質に関する実験的研究

浅野俊夫

主としてニホンザルの摂食行動をとり上げ、摂

1) 本吉良治・山田恒夫(京大文学部, 58年度共同利用研究員)との共同研究。

2) 昭和58年度研修員。

食スケジュールがオペラント行動の強化子の強化力にどのように関与するかを、近年のエコロジ-的視点と環境適応における行動の配分(行動経済)という観点から分析する。

6) チンパンジーにおける刺激等価性の獲得に関する実験的分析

浅野俊夫

ヒトの言語習得過程において、もともと異なった刺激が機能的に等価な性質を獲得する過程が重要であることが明らかにされて来ているので、その過程をチンパンジーで吟味する。

7) チンパンジーの聴覚と音声の発達³⁾

小嶋祥三・浅野俊夫・松沢哲郎・室伏靖子

胎児期・新生児期のチンパンジーの聴覚刺激に対する反応を、超音波スキャナー、心音・心電計により、心拍、体動などから検討した。また、出生直後からの音声の記録を行い、ソナグラフで分析し、その発達の過程を追っている。さらに、発声行動を強化して、音声言語獲得の可能性を追求する予定である。

8) 霊長類の聴覚と音声の研究

小嶋祥三

聴覚については、チンパンジーの音の大きさの知覚に関する研究、ニホンザルにおける合成音声の弁別、記憶に関する研究を行った。また、音声については、人工電気喉頭によって、チンパンジーがどのような音声を発することが可能なのか検討し、また、ニホンザルの発声行動のオペラント条件づけの予備的な研究を行った。

9) 霊長類乳幼児の認知機能の発達

松沢哲郎

チンパンジーとニホンザルを主たる対象として、出生直後からの知覚・認知機能の発達を身体・運動・生理的な発達と関連させて観察した。

10) チンパンジーの視知覚機能の心理物理学的測定

松沢哲郎

チンパンジーの色知覚等の視知覚機能をその行動を通じて解析する。人工言語による言語反応、見本合わせ、感覚性強化による資料をもとに知覚の尺度構成をこころみた。

11) 食物嫌悪条件づけによる野生ニホンザルの

食性統制。⁴⁾

松沢哲郎

ニホンザル野生群を対象として、催吐剤を用いた嫌悪条件づけにより、特定食物に対する嫌悪を人為的に形成できることがわかった。食物選択の戦略の解明をすすめている。

12) 条件性強化子の成立要件の分析

藤田和生

ニホンザルの observing behavior の分析を通じて、条件性強化子が「強化 との対提示」、 「強化に関する情報」のいずれに基いて成立するのかを検討した。

13) 感覚性強化を用いた霊長類の認知世界の分析

藤田和生

霊長類が、ヒト・サル・物などをどのように把握分類しているかを、それらの感覚性強化子としての機能に基づいて分析する。

14) ニホンザルにおける「同・異」概念の形成

藤田和生

「同・異」概念の形成を容易にする要因を分析する。訓練試行内の比率強化スケジュールの効果を検討中である。

総 説

- 1) 室伏靖子(1983): 類人猿における言語的行動 — その現状 —。日本語学, 2(7), 57-62。
- 2) 室伏靖子(1983): 動物の記憶。“現代基礎心理学第6巻 学習Ⅱ”, pp. 43-72。東大出版会。
- 3) 室伏靖子(1983): 概念の獲得 — その比較心理学的考察 —。動物心理学年報, 33, 9-24。
- 4) 浅野俊夫(1983): 類人猿の人工言語獲得。日本行動分析研究会編“ことばの獲得” pp. 53-74。
- 5) 浅野俊夫(1983): 最近の学習理論: Skinner の流れ。“現代基礎心理学第6巻, 学習Ⅱ” pp. 255-271。東大出版会。

-
- 4) 長谷川芳典(京大・文), 東滋(社会部門), 和田一雄(変異部門), 川村俊三(社会部門) との共同研究。
 - 5) 本研究所非常勤講師。

-
- 8) 神経生理, 生理部門, サル施設との共同研究。

- 6) 浅野俊夫(1983): サルの行動分析の基礎から。第21回日本医学会総会誌, 2731-2734。
- 7) 小嶋祥三(1983): 霊長類による記憶の研究。岡野恒也編“霊長類心理学Ⅰ” pp. 119-154. プレーン出版。
- 8) 小嶋祥三(1984): 動物の記憶コードとその生理学的対応。早稲田心理学年報, 16, 29-35。
- 9) 松沢哲郎(1983): ニホンザル・チンパンジー・ヒトの姿勢の発達。霊長類の比較発達心理学①。発達, 16, 30-39。
- 10) 松沢哲郎(1983): つかむ, つまむ, ゆびさす——霊長類の手と指のはたらき——霊長類の比較発達心理学②。発達, 17, 23-33。
- 11) 松沢哲郎(1984): 種間比較言語学 チンパンジーとヒトの色彩語彙の比較。言語生活, 385, 70-80。

論 文

- 1) Matsuzawa, T., Hasegawa, Y., Gotoh, S. & Wada, K. (1983): One-trial long-lasting food-aversion learning in wild Japanese monkeys (*Macaca fuscata*). *Behav. Neural Biol.*, 39, 155-159.
- 2) Fujita, K. (1983): Formation of the sameness-difference concept by Japanese monkeys from a small number of color stimuli. *J. Exp. Anal. Behav.*, 40, 289-300.

学会発表

- 1) 室伏靖子: 概念の獲得。その比較心理学的考察。日本動物心理学会第43回大会(1983)。
- 2) 浅野俊夫・吉久保真一: チンパンジーの条件性弁別: 対面場面とキーボード場面の比較。日本動物心理学会第43回大会(1983)。
- 3) 浅野俊夫・樋口義治: ニホンザル野外群におけるオペラント行動(2)。動機づけ要因の検討。日本心理学会第47回大会, 発表論文集 352。(1983)。
- 4) 樋口義治・浅野俊夫: ニホンザル野外群におけるオペラント行動(1)。負荷と社会的順位。日本心理学会第47回大会, 発表論文集 351。(1983)。
- 5) 浅野俊夫: 閉鎖食物環境におけるFR反応:

自由摂食時間の場合。日本基礎心理学会(1983)。

- 6) 樋口義治・浅野俊夫: ニホンザル集団におけるトークン使用の形成。日本基礎心理学会(1983)。
- 7) 小嶋祥三: 霊長類の合成音声の弁別。日本動物心理学会第43回大会(1983)。
- 8) 小嶋祥三: 霊長類の音の記憶に関する研究——系列位置効果——。日本心理学会第47回大会, 発表論文集 386。(1983)。
- 9) 松沢哲郎: チンパンジーの見えるの世界と視力。日本動物心理学会第43回大会(1983)。
- 10) 長谷川芳典・松沢哲郎: 野生ニホンザルにおける食物選択の戦略。日本動物心理学会第43回大会(1983)。
- 11) 松沢哲郎: チンパンジーにおける「文法」の生成。日本心理学会第47回大会, 発表論文集 390。(1983)。
- 12) 岩脇三良・松沢哲郎: ヒトとチンパンジーにおける図形および文字の認知。日本心理学会第47回大会, 発表論文集 158。(1983)。
- 13) 林部敬吉・原政敏・辻敬一郎・松沢哲郎: ニホンザルの奥行視の発達に関する研究(3)。日本心理学会第47回大会, 発表論文集 201。(1983)。
- 14) 藤田和生: ニホンザルの observing behavior。日本動物心理学会第43回大会(1983)。
- 15) 藤田和生: ニホンザルの弁別学習に及ぼす強化スケジュールの効果。日本心理学会第47回大会, 発表論文集 394。(1983)。

社会研究部門

川村俊蔵・鈴木 晃・小山直樹・森 梅代

研究概要

- 1) ニホンザルの耕地回避学習

川村俊蔵・泉山茂之

国内では木曽研究林の整備に努力し、とくにしょうぶ平観察場開設準備を行った。従来よりつづけているニホンザルの耕地回避学習実験では、これまでの木曽に加え、滋賀県朽木村での比較対照実験を行った。

- 2) ニホンザルの地域個体群の動態と群れのスペーシングに関する研究